

---

# 背中合わせの言葉遊び

葉月羽音

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

背中合わせの言葉遊び

### 【Nコード】

N8682T

### 【作者名】

葉月羽音

### 【あらすじ】

背中合わせ - 消滅すべき一人 + 残る一人 // 言葉遊びの結末の先は

(ブログ「World End」掲載作品)

背中合わせに座る二人。

椅子は二つ。背中合わせの二つ。ああ、けれど、けれど。

「どちらかは消えてしまわなければいけない。」

呟いたのはどちらか。はたまた、どちらも同時に呟いたのか。

背中合わせの二人。背中合わせの椅子。腰掛けたまま、互いの顔を見ることなく言葉は続く。

「貴方は消えたい？」

「そういう貴方は？」

「私はどちらでも。」

「なら私もどちらでも。」

繰り返されるやり取りの答えは鸚鵡返し。決して混じり合うことは無いのだと言わんばかりに反響して落ちていく。

これでは答えが出てこない。呆れたように俯いて溜息を吐く一人。もう一人は空を見上げて笑った。

「消えましょうか？」

「貴方が？」

「ええ、私が。」

「お好きにどうぞ。」

「なら好きにしましょう。」

立ち上がる一人。座り続ける一人。背中合わせの二人。立ち上がった一人の椅子は消えてしまった。

座ったままの一人はこれでよかったのだろうか、とふと考える。く  
るり、回る思考。本当にこれでよかったの？後悔はしないの？この  
選択が正しいの？それとも間違っていたの？消えるのは私だったの  
？それとももう一人が消えることでよかったの？ ああ、くるり、  
クルリ、回る思考回路。誰も答えなんて示してくれない。

「考えなくていいわ。これが正解だもの。」

呟いたのは消えた一人。聞いたのは残った一人。

ああ、もし、もしもこれが正しい正解だというのなら、どうして、  
どうして私は。

背中合わせの二人。一人は消えて背中合わせは成立しない。  
座る一人。消えた一人を偲んで沈む。消えた一人。座る一人を想っ  
て浮かぶ。  
背中合わせの二人。何処までいっても、互いに背中合わせ。  
顔を見合わせることなく、沈む、浮かぶ、背中合わせ。

さて、これは、何を意味した、言葉遊びなのだろうか？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8682t/>

---

背中合わせの言葉遊び

2011年10月9日04時30分発行